

●第25回村野藤吾賞選考経過

第25回村野藤吾賞選考委員会は2011年2月27日に、谷口吉生、仙田満、高橋晶子、古谷誠章、村上徹の5氏の選考委員により開催された。

今回の選考対象は、村野藤吾記念会会員より推薦のあった以下の11作品であった。

宇土市立宇土小学校(小嶋一浩+赤松佳珠子)、永元寺 蕪坐離庵(久保清一+鍵山昌信)、軽井沢千住博美術館(西沢立衛)、多面体の屋根・岐阜ひるがの(横河健)、澄心寺庫裏(宮本佳明)、長楽寺禅堂(桑原裕彰)、豊島美術館(西沢立衛)、日月潭風景管理処(團紀彦)、富士山環境交流プラザ(川野久雄)、ホキ美術館(山梨知彦)、真壁伝承館(渡辺真理+木下庸子)。(作品名50音順)

選考委員はまず、クライテリアの確認を行った。選考基準として、建築界に大きな感銘を与える建築作品の設計者ひとりに贈る賞と規定されていること。選考対象は、推薦締め切り日から起算して過去3年以内に完成した建築作品の設計者で、村野藤吾記念会会員および選考委員の推薦によるものであること。過去の受賞歴および独立した建築家であるか組織に属する建築家であるか、自薦、他薦を問わないことを確認した。

また、選考委員会には長を置かず、それぞれが平等の1票を持つことを、選考にあたる上での確認事項とした。

その後、応募添付資料や作品掲載誌を選考委員各自で閲覧し、選考のための議論の対象とすべき作品をひとり3作品を挙げる投票を行った。

投票の結果、「豊島美術館」と、「宇土市立宇土小学校」の2作品のみが過半の票を獲得した。

各選考委員がそれぞれ推挙した作品について見解を述べた後、上記2作品を議論の対象とすることを選考委員全員で確認した。

選考委員からは、まったく性格の異なるふたつの作品に優劣を付けることの難しさについての意見もあり、いずれの作品とも、村野藤吾賞に推すに値するものであるという見解で、選考委員全員が一致した。

その上であらためて投票を行った結果、豊島美術館が過半を占め、その結果を全選考委員が納得できるものと認めたため、村野藤吾賞選考委員会として、豊島美術館を第25回村野藤吾賞に推すことを決定した。

「豊島美術館」は瀬戸内海の小島の海を望む小高い丘の中腹に、ひとりのアーティストのひとつの作品のための美術館として建てられている。選考委員会では、大きな開口を持つ不定型な低ライズのコンクリートシェルが作り出す空間の独自性、選択された素材やディテール、構造、施工技術、そして周囲の自然環境との調和が高く評価された。また、建築が展示物と対峙することなく、アート作品が生き生きと存在していることが注目された。